

3 イントネーション

イントネーション (ピッチ) とは、日本語にもある、音の高低のことである。
(\は下降調、/は上昇調を表す。)

A 平叙文

一般的に平叙文は下降調で読まれる。

(例) I went to Australia this summer\.

ただし、形は平叙文でも、上昇調で読めば疑問を表す。

(例) You went to Australia this summer/?

(今年の夏オーストラリアに行ったんだって?)

B 疑問文

一口に疑問文と言っても、種類によって読み方が異なるので注意が必要である。

(1) Yes-No 疑問文

Yes-No 疑問文は上昇調で読む。

(例) Did you go to Australia this summer/?

(2) 疑問詞疑問文

疑問詞疑問文は、Yes-No 疑問文とは異なり、下降調で読むのが基本である。

(例) When did John go to Australia\?

[参考] ただし、特別な関心や親しみを表したりする場合や、相手の発言が聞き取れなく問い返す場合などに、上昇調になる場合がある。

(例) I'm sorry; how old is she/? (すみません、彼女何歳ですって?)

(3) 選択疑問文

"A or B"、"A, B, or C"の選択肢のうち、最後のみを下降調で、後は上昇調で発音する。

(例) Is this yours/ or mine\?

Would you like tea/ , coffee/ or green tea\?

(4) 付加疑問文

付加疑問文は、確認をするための疑問文であり、上昇調で読むのが基本であるが、念を押すという意味合いの場合は下降調にする。

(例) You called me yesterday\, didn't you/? (昨日電話をしましたか。)

You called me yesterday\, didn't you\? (昨日電話をしましたね。)

ただし、依頼の命令文に添える場合は上昇調。

(例) Open the window\, will you/?

C 命令文

命令文は警告や要請を表すが、警告の意味合いの場合は下降調、要請の場合は上昇調になる。

(例) Open your eyes\。 (ほら、目を開けなさい。)

Open your eyes/。 (さあ、目を開けて下さい。)

D 対比を表すための下降上昇調

「○○はそうだが・・・(他は違う)」や「○○はそうではないが・・・(他はそうだ)」という対比を表すためのイントネーションである。

(例) I've brought the **téxtbook**. (テキストは持ってきたのですが・・・(辞書は
忘れました。))

I **didn't** drink **wíne**. (ワインは飲みませんでした。(飲んだのは他の種類の
酒です。))